資料２

医療ツーリズム推進に向けての課題について（案）

調査結果等からの課題

① 多言語対応や医療通訳者の育成・確保、外国語を話す医師、看護師等医療スタッフの配置が必要となる。

② 外国人患者情報の入手など、医療ツーリズムを実施する上での関係者間の連携が図られていない。

③ 外国人患者は、日本人患者に比べて未収金の発生や訴訟・トラブルの可能性が高くなるのではないかという不安を医療機関が抱いている。

④ 海外での愛知の認知度が低く、愛知の医療についても知られてない。

⑤ 緊急の場合、早期に外国人患者を受入れられるようにする必要がある。

取組の方向性

● **外国人患者の円滑な受入れへの支援**
（①、②、③への対応）

・多言語対応、医療通訳の育成・確保、外国人医師等を含めた外国語を話す医師、看護師等医療スタッフの配置や未収金、訴訟・トラブルの問題など様々な課題について、医療ツーリズムを既に実施している医療機関の先進事例等を啓発するなど、外国人患者受入れに円滑に取組めるよう支援する。

・関係者が連携して外国人患者を円滑に受入れられるよう、検討する場を設けるなど、官民一体となった医療ツーリズム推進を目指す。

● **海外への情報発信の強化**（④への対応）

・海外での愛知の認知度が低いことから、愛知の医療を海外に積極的に紹介できるよう、情報発信方法等について強化を図る。

● **ビザ（査証）の早期発給**（⑤への対応）

・緊急の場合、ビザ（査証）の早期発給が可能となるよう、国へ働き掛ける。

推進するにあたっての方策

【外国人患者の円滑な受入れへの支援】

〈取組１　取組機関：関係団体・県〉

<u>県内医療機関を対象としたシンポジウムを開催するなど、医療ツーリズム推進に向けた先進事例等取組の啓発</u>

医療ツーリズム推進に向けた課題の解決策や具体的な取組について、先進事例を発表するシンポジウムを開催し、医療機関の外国人患者受入れが円滑になるよう支援するとともに、県内の医療ツーリズム推進の機運を高める。

〈取組２　取組機関：県〉

<u>「あいち医療ツーリズム協議会（仮称）」の設置</u>

愛知の優れた医療技術を世界へ発信するため、医療ツーリズム推進の具体的取組を県内の医療関係者等で検討する場として、「あいち医療ツーリズム協議会（仮称）」を設置する。

〈取組３　取組機関：医療機関〉

<u>国際医療コーディネーターの活用</u>

外国人患者を円滑に受入れるため、受入れ医療機関のマッチング、通訳派遣など外国人患者受入れに関わる一連のサービスを業とする国際医療コーディネーター（38 社【医療滞在ビザ身元保証機関登録社数】・平成 26 年度末現在）を活用する。

また、医療機関によっては、日本式医療の輸出（アウトバウンド）による海外医療機関と相互に患者紹介する等の連携が考えられる。

〈取組４　取組機関：関係団体・県〉

<u>官民一体となった医療ツーリズムの推進</u>

医療ツーリズム発展に寄与することを目的とする一般社団法人中部メディカルツーリズム協会など関係団体と連携を図り、官民一体となって医療ツーリズム実施医療機関を支援する。

【海外への情報発信の強化】

〈取組５　取組機関：医療機関・県〉

<u>海外への情報発信の強化</u>

医療機関のホームページに多言語での専用サイトの作成や、海外の関係者に愛知の医療を紹介するなどの取組を実施する。

【ビザ（査証）の早期発給】

〈取組６　取組機関：県〉

<u>国家戦略特区による規制緩和の活用</u>

国家戦略特区を活用し、ビザ（査証）の取得期間の短縮を提案する。